

令和5年度 十日町市小中一貫教育実施計画 <資料>

1 まちづくりの目標値

「第2次十日町市総合計画後期基本計画（令和3年度～令和7年度）」

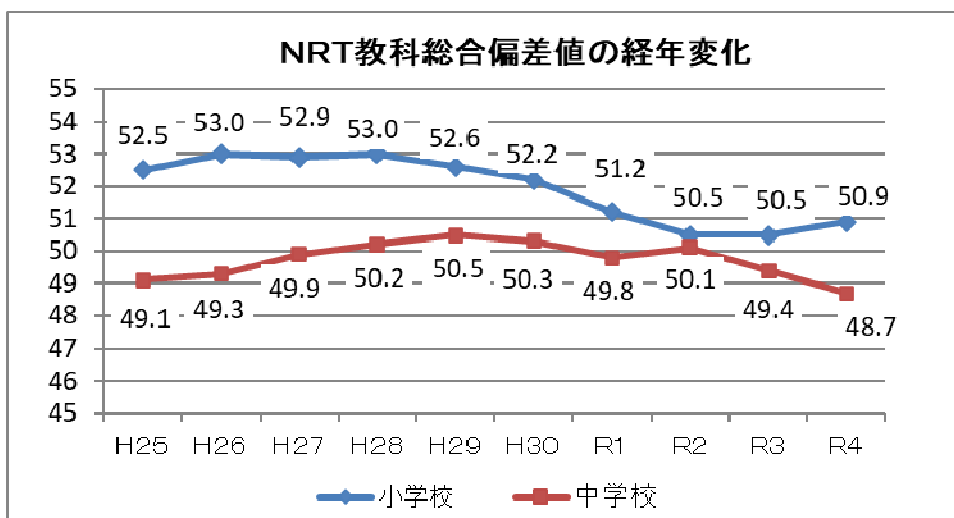
政策：ふるさとを愛し自立して社会で生きる子どもを育てるまち

項目	現 状 (R 4年度末)	目 標 (R7年度末)
全国学力標準検査（NRT）で全学年・全教科の児童生徒の教科総合偏差値	小学校 50.9 中学校 48.7	小学校 53.0以上 中学校 50.0以上
不登校児童生徒（病気や経済的理由以外で1年間に30日以上欠席）の割合	小学生 1.35% 中学生 6.29%	小学生 0.80%以下 中学生 2.90%以下

2 学力の状況

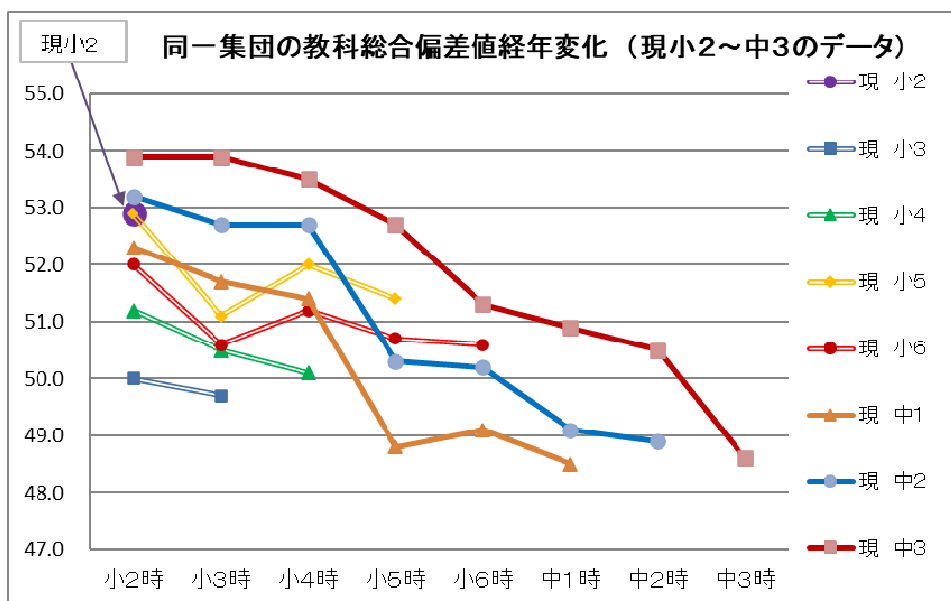
(1) 学力向上に関する目標の達成状況

- 全国学力標準検査（NRT）における全学年・全教科の児童生徒の教科総合偏差値

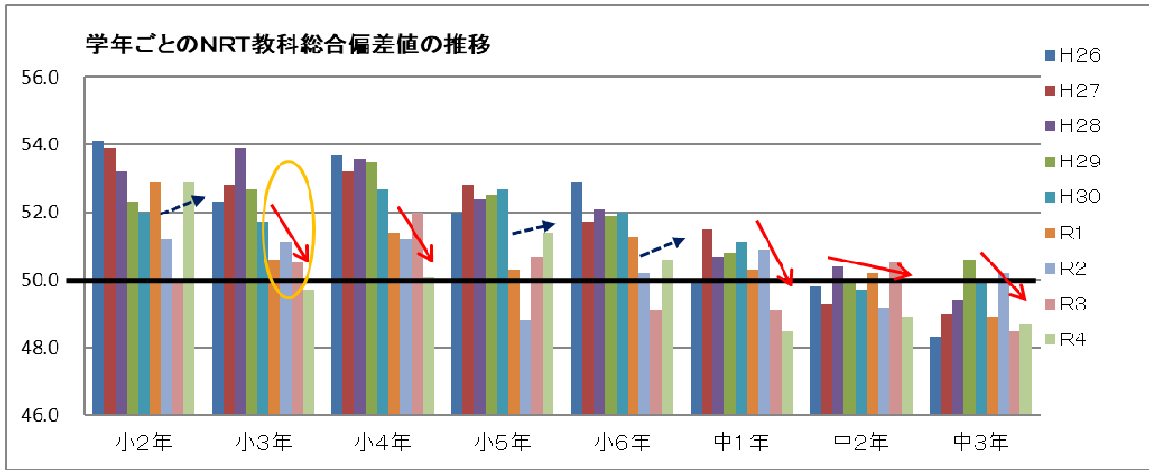


(2) 令和4年度 全国標準学力検査（NRT）の結果から見る学力の推移

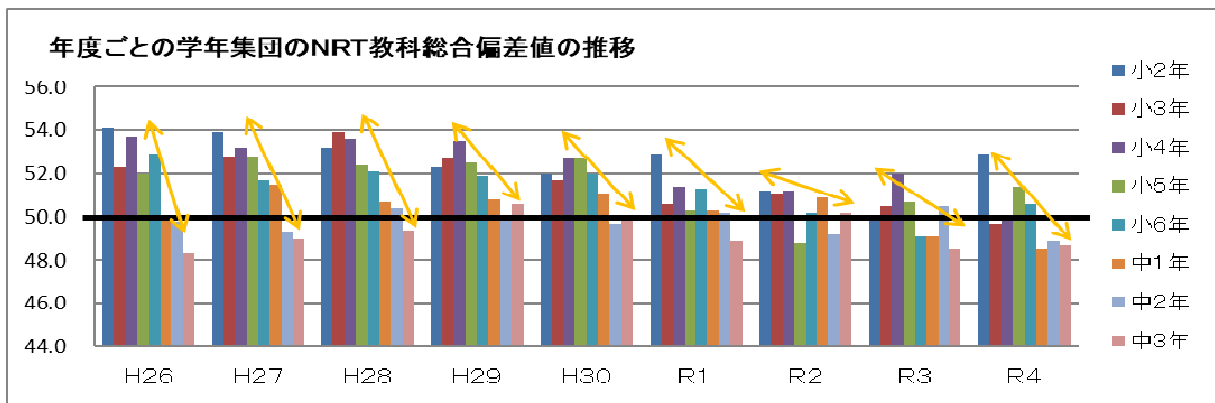
- ① 同一集団（同一の学年）のNRT教科総合偏差値の推移



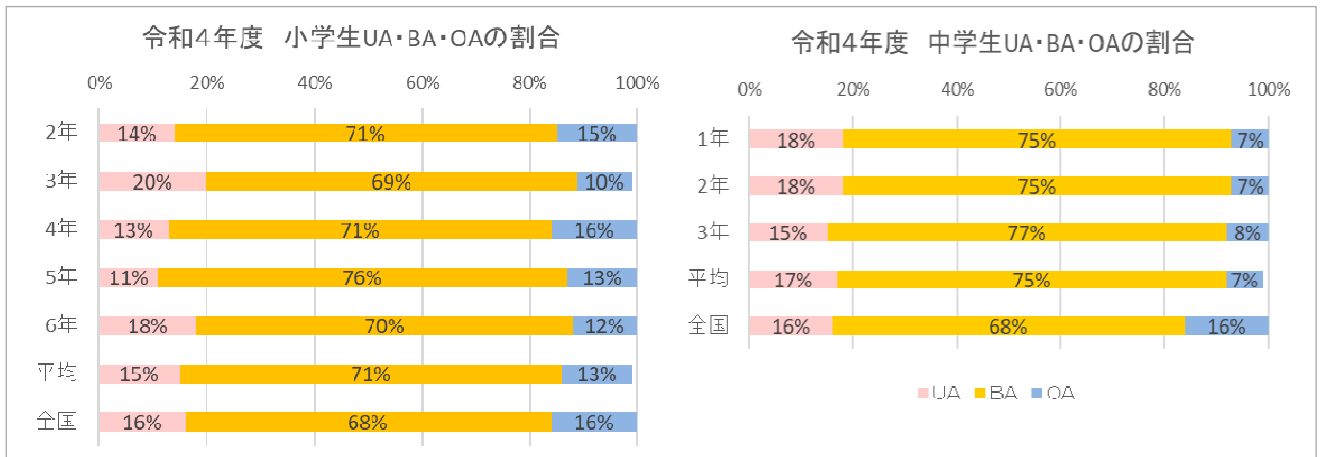
② 学年ごとの教科総合偏差値の推移



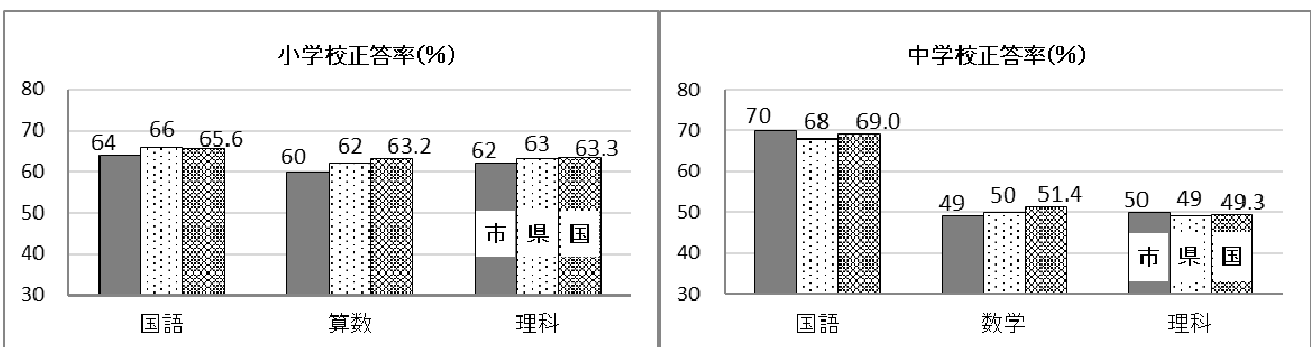
③ 年度別学年集団の教科総合偏差値の推移



④ 令和4年度のアンダーアチーバー(UB)・バランスアチーバー(BA)・オーバアチーバー(OA)の割合

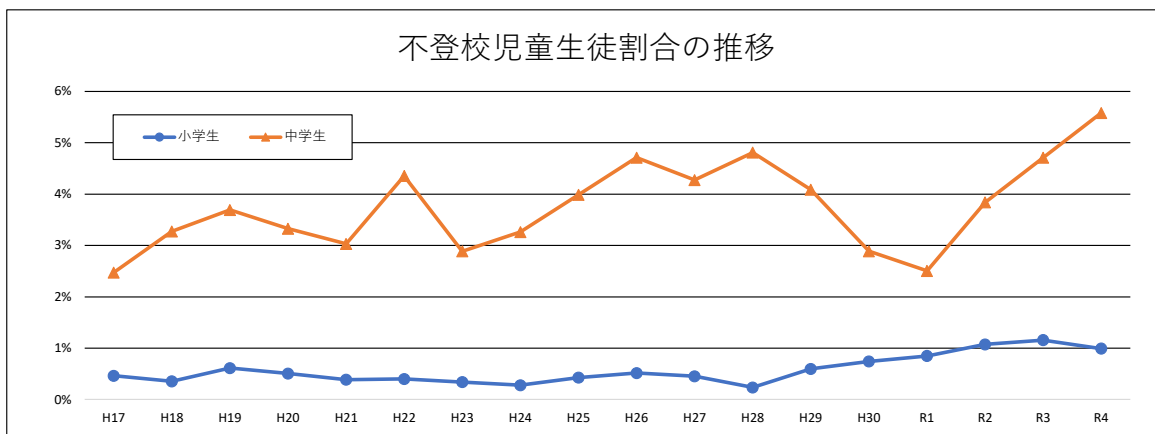


(3) 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果から見る学力の状況



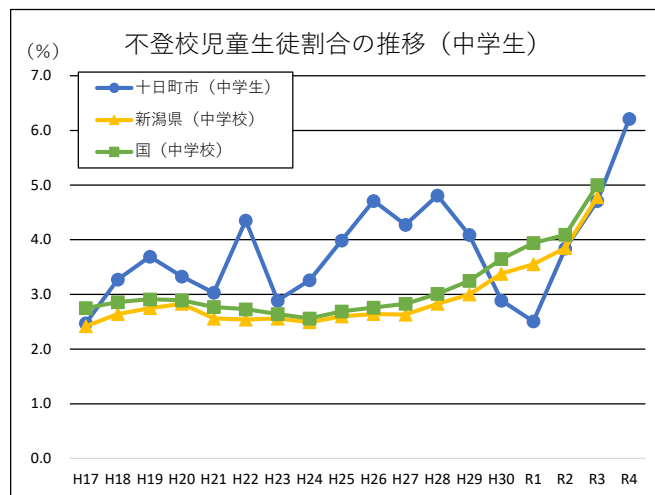
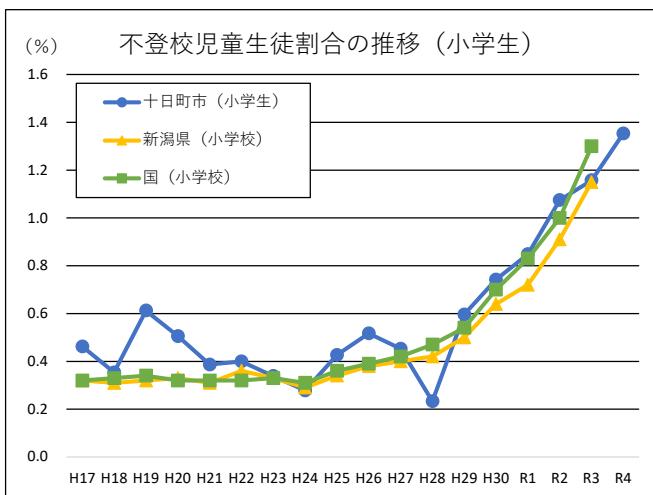
### 3 不登校児童生徒・いじめの状況

#### (1) 不登校児童生徒に関する目標の達成状況

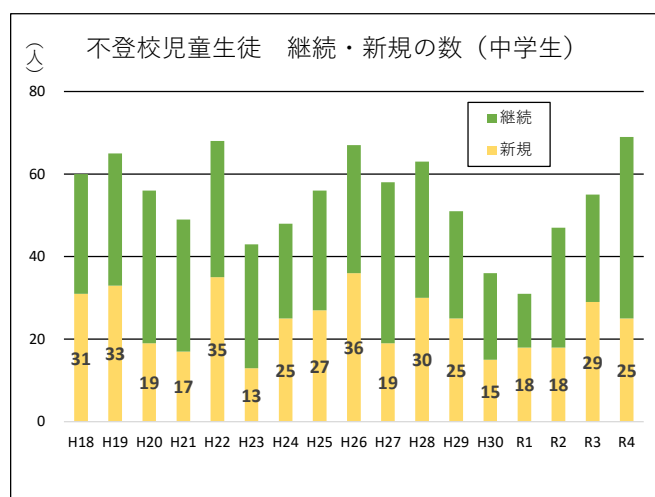
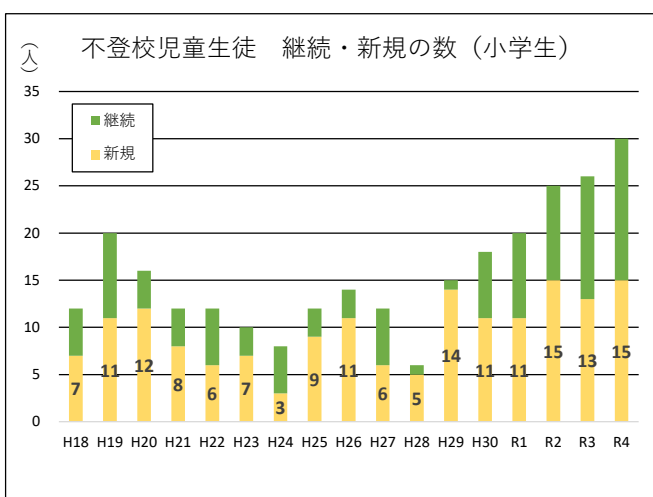


#### (2) 不登校児童生徒割合の推移

※R4の県・国の数値は未発表



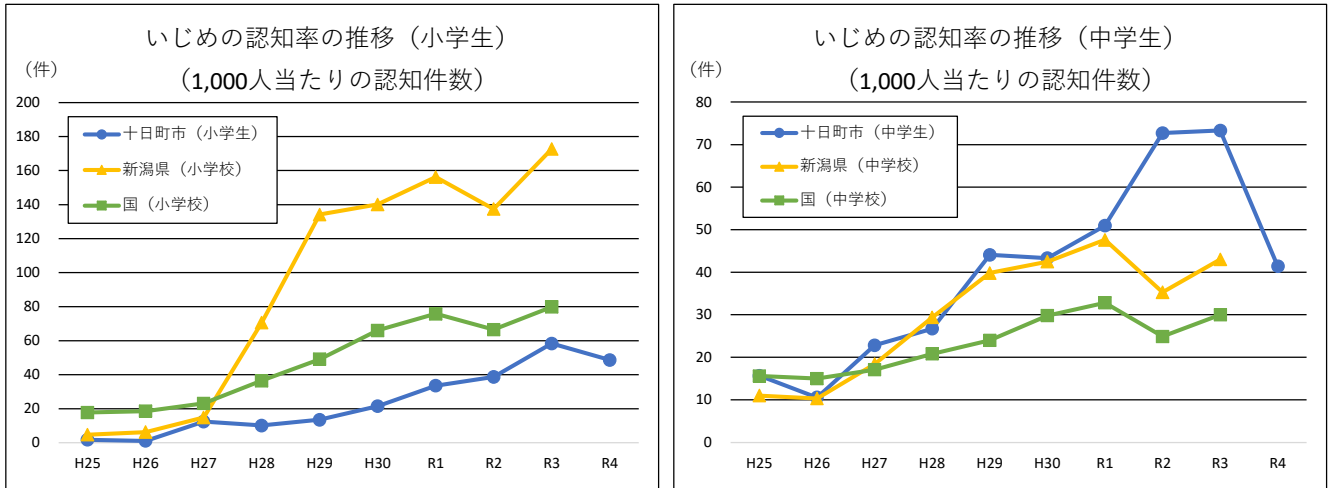
#### (3) 新たな不登校数の推移



#### (4) 「いじめはどんな理由があっても許されない行為である」と答える児童生徒の割合

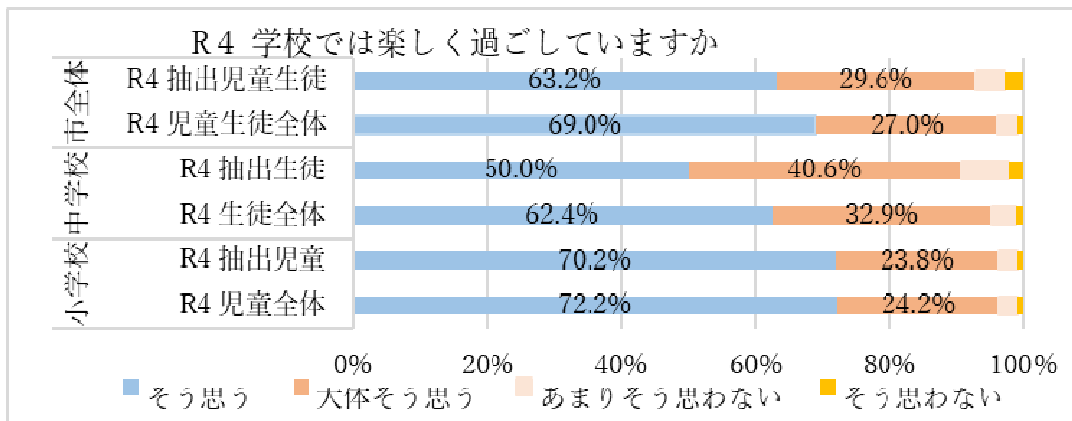
<小学生> 令和4年度 90.8% (令和3年度 91.9%) ※強い肯定「そう思う」の割合  
 <中学生> 令和4年度 85.1% (令和3年度 86.4%)

(5) いじめの認知率（1,000人当たりの認知件数）の推移 ※R4の県・国の数値は未発表



4 特別支援教育の状況

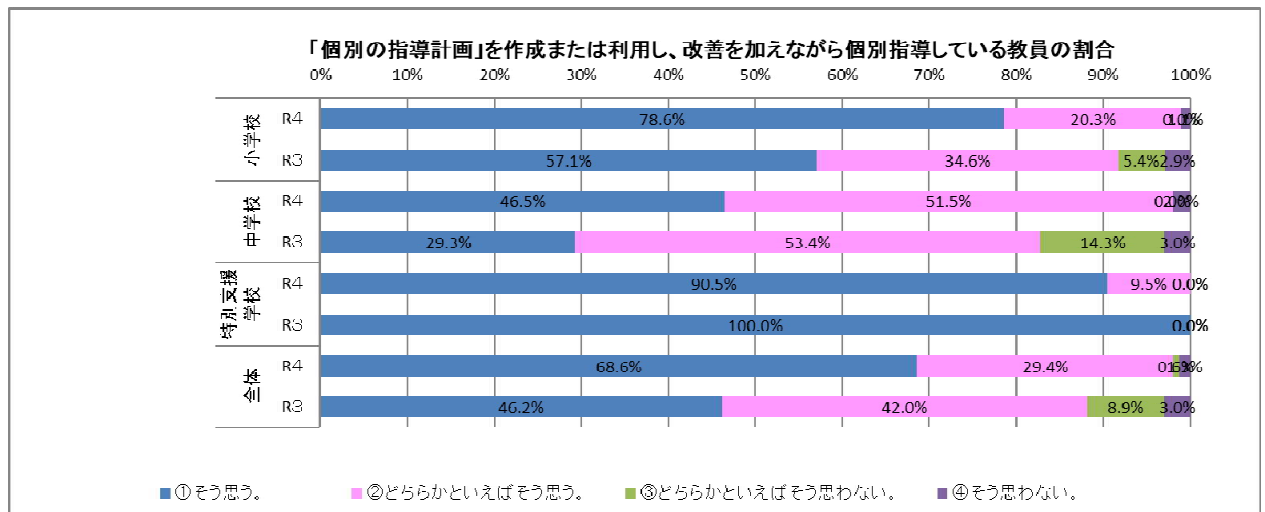
(1) 特別な支援を要する児童生徒の学校生活に対する意識



※抽出児童・抽出生徒…学級担任が特別な支援が必要だと感じている児童生徒

(2) 個別の指導計画を作成・利用し、改善を加えながら個別指導している教職員の割合

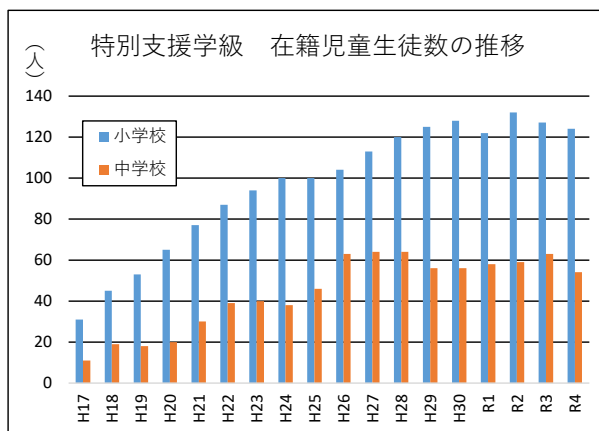
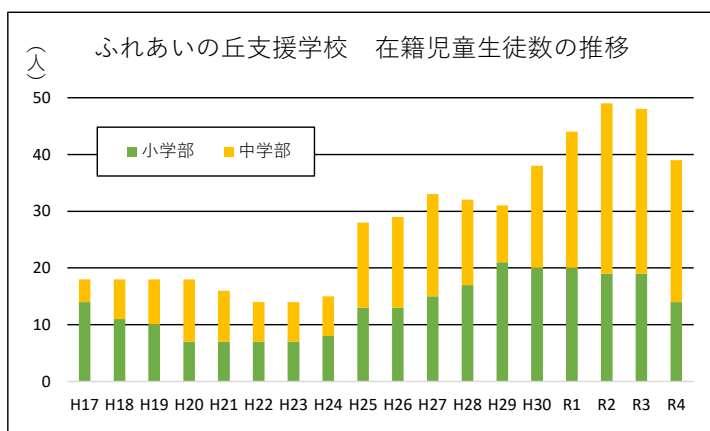
※ 小・中学校には、ふれあいの丘支援学校小学部・中学部をそれぞれ含む



(3) 特別支援教育にかかわる研修会（校内外不問）に年1回以上参加した教員の割合  
令和4年末 99.7% （令和3年度末 99.5%）

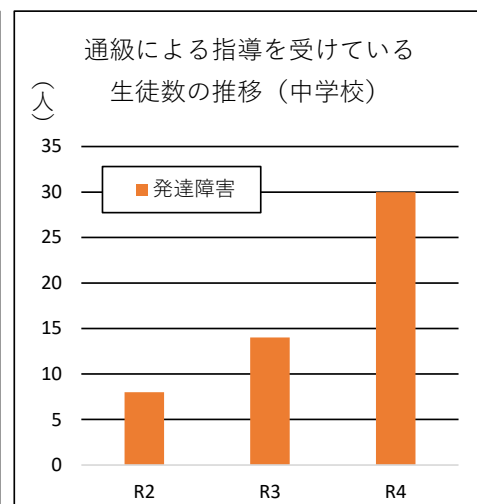
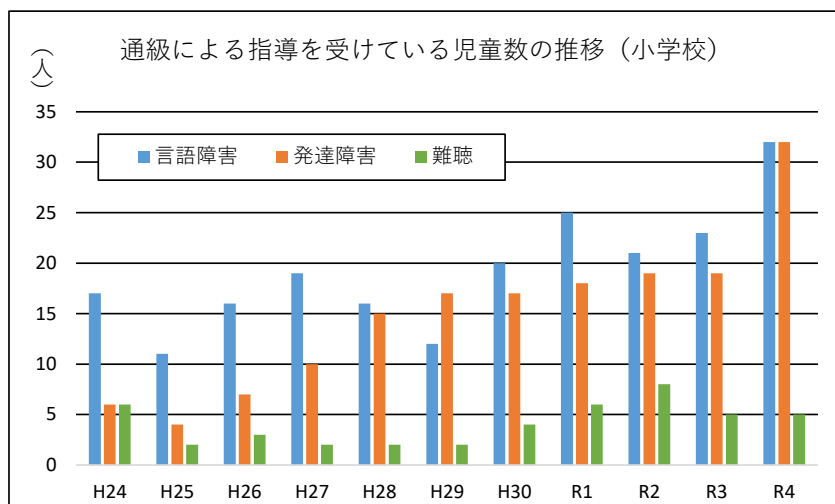
(4) 特別支援学校・特別支援学級児童生徒数の推移

※各年度5月1日現在



(5) 通級による指導を受けている児童生徒数の推移

※各年度5月1日現在



## 6 小中一貫教育中学校区10ブロック

(令和5年2月1日現在の令和5年度見込数)

No.	中学校区	タイプ	小学校	学級数(※) 児童数	中学校	学級数(※) 生徒数
1	拡大中学校区 (4小2中)	分離型	十日町	12学級(2) 245人	十日町	6学級(2) 187人
			東	8学級(3) 214人		
			中条	6学級(2) 185人	中条	5学級(2) 134人
			飛渡第一	3学級(0) 11人		
2	南中学校区 (2小1中)	分離型	川治	9学級(2) 257人	南	8学級(3) 237人
			西	12学級(2) 262人		
3	吉田中学校区 (2小1中)	分離型	吉田	4学級(1) 27人	吉田	3学級(1) 47人
			鏡島	4学級(1) 44人		
4	下条中学校区 (1小1中)	併設型	下条	6学級(2) 115人	下条	3学級(2) 79人
5	水沢中学校区 (2小1中)	分離型	水沢	6学級(3) 158人	水沢	3学級(2) 86人
			馬場	4学級(1) 39人		
6	川西中学校区 (3小1中)	分離型	千手	6学級(3) 117人	川西	5学級(1) 116人
			上野	4学級(1) 50人		
			橘	5学級(2) 54人		
7	中里中学校区 (2小1中)	分離型	田沢	7学級(3) 189人	中里	3学級(2) 75人
8	松代中学校区 (1小1中)	分離型	松代	6学級(2) 84人	松代	3学級(1) 61人
9	松之山中学校区 (1小1中)	一体型	松之山	6学級(1) 51人	松之山	3学級(1) 31人
10	ふれあいの丘 支援学校	一体型	小学部	6学級(重複学級・訪問含む) 16人	中学部	7学級(重複学級含む) 21人

※学級数：( )内数字は特別支援学級数で学級数には含まない。

令和5年度 十日町市小中一貫教育実施計画 <資料>

7 取組評価（令和4年度アンケート調査）の結果 < 実施年月日>児童・生徒 令和4年11月 教職員・保護者：令和4年2学期、黄色い数値は評価基準に達したものの

No.	評価項目	対象	評価基準	H26年度	H29年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	
1	学校で楽しく過ごしていると感じている子の割合 (学校が楽しいと感じている子の割合)	小1～ 中3	H26年度より増える。 94.3% (61.6%)	94.3% (61.6%)	94.3% (65.5%)	94.4% (66.4%)	92.5% (65.1%)	95.3% (70.0%)	96.0% (69.0%)	
2	学校で友達に会うのが楽しいと感じている子の割合		H26年度より増える。 97.6% (79.7%)	97.6% (79.7%)						
	違う学校や違う学年との交流は楽しいと感じている子の割合		H29年度より増えるに変更 89.2% (59.3%)		89.2% (59.3%)	88.2% (55.5%)	87.2% (53.1%)	88.9% (54.6%)	89.0% (54.2%)	
3	好きな授業や得意な教科があると感じている子の割合 (学校で好きな授業があると感じている子の割合)		H26年度より増える。 92.9% (71.5%)	92.9% (71.5%)	94.0% (75.0%)	92.7% (74.0%)	93.2% (75.5%)	94.1% (68.9%)	93.4% (69.9%)	
4	英語を話せるようになるために、勉強したいという子の割合		H29年度より増える 80.9% (48.4%)		80.9% (48.4%)	80.2% (47.5%)	79.4% (46.9%)	84.9% (50.2%)	81.3% (44.3%)	
			学校教育の重点の市の目標値 小学生 85%以上 中学生 80%以上					小 87.6% 中 79.3%	小88.3% 中76.5%	
5	自分には良いところがあると感じている子の割合		H26年度より増える。 75.7% (34.1%)	75.7% (34.1%)	76.6% (38.9%)	78.4% (40.4%)	77.4% (38.8%)	79.8% (39.3%)	80.5% (40.3%)	
6	いじめはどんな理由があってもよくないと思う子の割合		学校教育の重点の市の目標値 強い肯定「そう思う」(括弧内の数値)が100%					98.3% (90.1%)	98.2% (89.0%)	
7	自分の住む地域や十日町市が好きな子の割合	H26年度より増える。 93.5% (67.1%)	93.5% (67.1%)	93.0% (68.9%)	92.9% (66.8%)	87.0% (56.1%)	94.4% (72.4%)	95.1% (70.9%)		
		学校教育の重点の市の目標値 小学生 96.8%以上 中学生 90.0%以上					小 97.5% 中 90.0%	小97.2% 中92.2%		
8	人の役に立つことがあると感じている子の割合	H29年度より増える 79.1% (34.0%)		79.1% (34.0%)	77.7% (35.4%)	75.6% (35.0%)	83.9% (39.9%)	82.7% (38.9%)		

No.	評価項目	対象	評価基準	H26年度	H29年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
9	家や塾での学習をしている子の割合（学校の授業以外で学習に取り組んでいる子の割合）	小5～ 中3	H26年度より増える。 83.3% (47.7%)	83.3% (47.7%)	86.7% (53.9%)	87.1% (55.7%)	87.0% (56.1%)	83.9% (58.1%)	78.5% (45.1)
10	地域行事やボランティア活動に参加している子の割合		H29年度より増える 64.4% (30.5%)	/	64.4% (30.5%)	62.6% (29.8%)	55.4% (24.6%)	59.5% (22.9%)	57.4% (19.9%)
11	将来の夢や目標がある子の割合（将来の夢や目標を持っている子の割合）		H26年度より増える。 81.1% (53.0%)	81.1% (53.0%)	80.1% (50.6%)	78.1% (48.9%)	76.4% (49.1%)	78.6% (27.6%)	75.0% (45.4%)
			<b>学校教育の重点の市の目標値</b> 小学生 90.0%以上 中学生 80.0%以上	/	/	/	/	小 86.0% 中 73.2%	小 81.7% 中 69.9%
12	中学校進学を楽しみにしている小学校6年生の割合	小6	H26年度より増える。 94.8% (21.3%)	94.8% (21.3%)	89.0% (25.5%)	89.5% (26.4%)	85.2% (19.5%)	92.3% (25.4%)	95.4% (28.6%)
13	全国学力標準検査（NRT）で全学年・全教科の児童生徒の平均偏差値	小2～ 中3	小学生 53.0以上 中学生 50.0以上	小学校 53.0 中学校 49.3	小学校 52.6 中学校 50.5	小学校 51.2 中学校 49.8	小学校 50.5 中学校 50.1	小学校 50.5 中学校 49.4	小学校 50.9 中学校 48.7
13※	不登校児童生徒の割合	小1～ 中3	小学生 0.20%以下 中学生 1.50%以下 (H25～H27)	(H25年度末) 小学校0.43% 中学校3.99%	(H28年度末)	(H30年度末)	(R元年度末)	(R2年度末)	(R3年度末)
			小学生 0.30%以下 中学生 2.60%以下 (H28～R2)	/	小学校 0.23% 中学校 4.86%	小学校 0.74% 中学校 2.89%	小学校 0.85% 中学校 2.51%	小学校 1.07% 中学校 3.84%	/
			小学生 0.80%以下 中学生 2.90%以下 (R3～R7)	/	/	/	/	/	小学校 1.16% 中学校 4.71%
14	小中共通実践を意識して取り組んでいる教職員の割合（中学校区の取組や小・中学校のつながりを意識して指導していると感じている教職員の割合）	教職員	H26年度より増える。 88.8% (38.9%)	88.8% (38.9%)	91.9% (33.0%)	90.8% (34.0%)	88.0% (33.2%)	89.0% (42.2%)	90.3% (44.9%)
15	個別の指導計画を作成または利用し、改善を加えながら個別指導している教職員の割合（特別な支援を要する子について、9年間を見通した支援を進めていると感じている教職員の割合）		H26年度より増える。 75.3% (24.3%)	75.3% (24.3%)	83.7% (37.0%)	83.5% (35.3%)	87.4% (39.1%)	88.2% (46.2%)	98.0% (68.6%)



No.	評価項目	対象	評価基準	H26年度	H29年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
16	地域教材や地域人材を積極的に取り入れている教職員の割合	教職員	H29年度より増える。 85.4% (40.1%)		85.4% (40.1%)	94.3% (44.5%)	84.9% (38.5%)	84.7% (44.2%)	83.4% (46.0%)
17	今年特別支援教育の研修に1回以上参加した教員の割合(※2月末に再調査した数値)		学校教育の重点の市の目標値 100%					99.5%	99.7%
18	学校は小中一貫教育の具体的な取組内容や成果・課題を公表していると感じている保護者の割合	保護者	H29年度より増える。 83.8% (26.3%)		83.8% (26.3%)	86.2% (30.3%)	83.0% (26.9%)	82.9% (27.5%)	83.4% (26.0%)
19	小・中学校が協力して学区の子どもの教育に取り組んでいると感じている保護者の割合		73.6% (25.5%)						
	学校は保護者・地域住民参加の呼び掛けなど、一体となった活動に努めていると感じている保護者の割合		H29年度より増える。 78.2% (23.2%)		78.2% (23.2%)	81.1% (25.5%)	77.4% (21.6%)	79.0% (22.7%)	79.6% (24.7%)

・項目1～8, 10～12, 15～19は、「①そう思う」「②大体そう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の四者択一でアンケートを採った。

・項目9は、「①週に6～7日」「②週に3～5日」「③週に1～2日」「④全くしない」の四者択一でアンケートを採った。

・各年度のアンケートの上段の数値は、「①そう思う」「②大体そう思う」または「①週に6～7日」「②週に3～5日」の肯定的な数値の割合を示している。

・各年度のアンケートの下段の()内の数値は、「①そう思う」または「①週に6～7日」の強い肯定の数値の割合を示している。

・評価基準には3種類あります。

①H26年度より増える…小中一貫教育本格実施のH26年度からの増減を見る。

②H29年度より増える…平成29年度の「本格実施3年間の取組検証」後に付け加えられた項目など。H29年度からの増減を見る。

③学校教育の重点の市の目標値…令和3～7年度の「学校教育の重点」改訂時に示した目標値への到達度を見る。